



## 高田病後児保育所「ぬくみ」 掲示板

【7月のテーマ】

虫さされによる皮膚トラブル

高田病後児保育所スタッフより

今年は例年より早く梅雨入りしました。梅雨時期から夏の時期になると、植物や生物も活発になります。そこで今回は、虫さされの原因や治療、とびひについてのご案内です。

### ☆虫さされの原因となる虫は？

皮膚炎を引き起こす原因となる主な虫としては、蚊、ノミ、ブユ、ハチ、トコジラミ、アブ、ケムシなどの昆虫類、そしてダニ、クモ、ムカデなどの昆虫以外の節足動物が挙げられます。これらのうち、「吸血する虫」としては蚊、ブユ、アブ、ノミ、トコジラミ、「刺す虫」としてはハチ、「咬む虫」としてはクモ、ムカデが代表的で、「触れることで皮膚炎をおこす虫」としては有毒のケムシが挙げられます。

### ☆虫さされの治療について

虫さされの治療は、軽症であれば市販のかゆみ止め外用薬でもよいですが、虫の種類や赤みやかゆみが強い場合はステロイド外用薬が必要です。症状が強い場合は抗ヒスタミン薬やステロイドの内服薬が必要になるので、かかりつけ皮膚科に受診してください。

### ☆かゆみからとびひ「伝染性膿痂疹(でんせんせいのうかしん)」へ

虫さされ、あせもや湿疹などかゆみが伴います。小さいお子さんにとってはかゆみが我慢できず、かいてしまうのではないのでしょうか。この時、注意しなくてはならない皮膚の病気が、「とびひ」です。皮膚をかきむしり、そこにできた浅い傷にバイ菌が入ることで、赤く腫れ、水ぶくれやじゅくじゅくした状態を形成して起こります。

水ぶくれやじゅくじゅくした中にバイ菌が入っていて、その液が出たり、破れたりして、その手で他の場所に触れると、同じよう状態があつという間に全身に広がります。

またアトピー性皮膚炎のお子さんは皮膚のバリア機能が低下している場合にも起こりやすいです。

### ☆とびひの治療について

症状が軽く、あまり全身に広がっていない時は、抗菌薬の入った塗り薬を使用します。とびひが全身に広がっている場合は、塗り薬に加えて抗生剤の内服を行います。はやめに皮膚科受診をしてください。

### ☆とびひを未然に防ぐには

- ・爪をこまめに切り、手洗いをしましょう。
- ・患部を触ったら、他のところを触らない。
- ・タオルや衣類を介してうつることもありますので、共用はしないようにしましょう。
- ・鼻の中にとびひの原因となる細菌がたくさんいます。鼻をさわると鼻の周囲からとびひがはじまる場合があります。

### ☆プール・水泳、お風呂について

プールや水泳はとびひが悪化したり、他人にうつす恐れもあるため、完全に治るまでは、避けてください。お風呂は、湯船に入らず、シャワーを使い石けんで泡をたてて、とびひの部分をやさしく洗い流し、清潔に保ちましょう。

参考文献 公益財団法人日本皮膚科学会 [一般市民の皆様 | 公益社団法人日本皮膚科学会 \(dermatol.or.jp\)](http://dermatol.or.jp)

